

1. 評価報告概要表

作成日 平成21年1月28日

【評価実施概要】

事業所番号	1170202657
法人名	株式会社 ヴォルファート
事業所名	グループホーム神根苑
所在地	〒333-0834 埼玉県川口市安行領根岸1260 (電話) 048-288-7736

評価機関名	社会福祉法人 埼玉県社会福祉協議会 福祉サービス評価センター
所在地	〒330-8529 埼玉県さいたま市浦和区針ヶ谷4-2-65 彩の国すこやかプラザ
訪問調査日	平成21年1月28日

【情報提供票より】(平成21年1月6日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年4月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	13 人	常勤 4人, 非常勤 9人, 常勤換算	8.8人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋耐火構造造り
	3階建ての2階～3階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	47,700～70,000 円	その他の経費(月額)	13,650円 + 実費	
敷金	有(120,000円)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	330 円	昼食	360 円
	夕食	360 円	おやつ	円
または1日あたり 1,050円				

(4) 利用者の概要(1月6日現在)

利用者人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名
要介護1	4 名	要介護2	2 名		
要介護3	10 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 82.7 歳	最低	98 歳	最高	66 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	春野クリニック、さいたま記念病院、けやき台歯科クリニック
---------	------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、住宅街の一角にある3階建ての建物で、1階にデイサービスが併設され、2・3階をグループホームが使用するかたちとなっている。ホーム内は明るく清潔で、健康面に配慮した造りになっている。管理職、職員は、介護計画を立てる際に、課題の抽出をしたり、本人の思いや意向等を把握しやすいように、「生活記録」の様式を独自に工夫し、連携を図っている。利用者は職員の支援を受けることで安心を得て、ゆっくりと暮らす中で自分らしさを取り戻し、穏やかな気持ちのよい生活を送っている。開設して約4年であるが、地域との交流や支えあ関係も徐々に深まってきているホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員を育てる取り組みとして、外部研修派遣を始めている。災害対策としては火災自動通報装置、音声点滅式誘導装置が整備されており、備蓄や避難経路の確保もされている。避難訓練はまだ行われていないが、今後実施に向けて、近日に目標をおき、消防署に相談する予定である。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価を実施する意義は理解されているが、今回の自己評価に関しては、全職員で取り組むには至っていない。主として管理者に任せられ、作成されている。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>最近開催した運営推進会議の議題としては、食材の調達、共益費、ターミナルなどが挙げられている。会議には、家族会の会長と副会長も出席しているが、定期的な開催には至っていない。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>月1回「神根苑だより」を発行し、苑での暮らしぶりや受診、行事等の予定を知らせている。運営推進会議に合わせて家族会を開くほか、面会時に声をかけをし、苦情や意見を聴くようにしている。意見や要望があった場合は前向きに受け止め、サービスの改善に活かしている。なお、契約書にも苦情相談窓口を明記するとともに、説明も行っている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会に入り、町内の行事に参加している。散歩時の挨拶やいただきものをする等、近所付き合いが徐々に深まってきている。地元保育園児の来苑や中学生の職場体験学習の受け入れ等もあり、地域との交流に努めている。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者、家族への安心の提供を第一に、共にゆっくりと暮らす中で、個々人の希望や意向を感じ取り、穏やかな気持ちのよい生活が出来るよう支援することを事業所独自の理念としている。		地域で暮らし続け、地域と支えあう関係づくりの支援に努力されているので、地域密着型サービスとしての文面を理念に盛り込むことが期待される。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念にそって、家庭的な安心した雰囲気づくりを心がけ、利用者一人ひとりの生活を大切に、利用者の様子をみて声かけをするなど実践に取り組んでいる。また、会議でも理念について取り上げ、話し合っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に入り、町内の行事に参加しており、散歩時の挨拶やいただきものをするなど交流は深まってきている。また、地元保育園児の来苑や中学生の職場体験学習の受け入れ等もあり、地域の人々と関わりを持つように努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価及び外部評価の意義は理解されており、前回の外部評価実施後、職員を育てる取り組みとして外部研修への派遣を始めるなど、改善を図っている。避難訓練については実施に向け、近日中に消防署と相談する予定である。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	最近開催した運営推進会議では、食材の調達、共益費、ターミナルなどを議題に話し合いが行われた。家族会の会長と副会長の出席も得ているが、定期的な開催には至っていない。		幅広い立場の人が参加する機会をより活かすためにも、定期的に会議を開催することが期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市主催の講習会に参加したり、個別の相談や運営等についての話し合いをすることでサービスの向上を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	「神根苑だより」を月1回発行し、金銭管理報告とともに毎月郵送している。あまり来訪のない家族には、随時電話で連絡しており、介護計画の変更時には書類を送付している。また、行事や外出先でのスナップ写真を、利用者一人ひとりにアルバムにして退所時に渡し、喜ばれている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に合わせて家族会を行うほか、面会時に声かけし、苦情や意見を聴くようにしている。意見や要望がある場合は前向きに受け止め、サービスの改善に活かしている。また、契約書に苦情相談窓口を明記するとともに、説明も行っている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動は原則として行っていない。職員の働きやすい環境づくりに努力するとともに、利用者には馴染みの職員が継続的に支える体制をとっている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全体会議で、ホーム長が後見人制度についての情報提供を行った。また、感染症O-157の研修参加報告について、スタッフの立場からの提言をするなど、職員全員がサービスの向上に向けて取り組んでいる。外部研修への派遣も始めている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	埼玉県のグループホーム協議会に加入しており、参加できるように努めている。現状としては、利用者の要介護度が高くなったりスタッフ不足などにより、希望してはいても継続的に研修や地域交流会に参加するのが難しい状況にある。		厳しい勤務状況下ではあるが、サービスの質の向上を目指すための集まりに、継続して参加する意義の理解を深め、取り組まれていくことが期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族から入居の相談を受けた場合は、当ホームの見学をはじめ、複数の選択肢があることを説明し、いろいろなグループホームを見学するよう勧めている。入居してから慣れるまでの間は、目配り気配りをしてホームに馴染んでいけるよう支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一人ひとりの利用者が持っている力を活かせるよう、できることを職員と一緒にゆっくりと行っている。職員は利用者から教えてもらうこともあり、支えあう関係を築いている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前の実態調査で本人や家族から話を聞いたり、入居後、何気ない時に発した言葉から本人の思いを察するように努めている。また、利用者一人ひとりについて、日常生活の中での気づきを全職員が生活記録に具体的に書くことになっており、その中から意向を把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケース会議、フロア会議を月1回開き、日々の生活記録から課題を見つけ、家族の意見等も反映させて計画を作成している。なお、工夫して作られた日々の記録を独自のアセスメントシートとして考え、介護計画の作成に活かしている。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3か月ごとに見直されているが、その間に変化が生じた場合には、臨機応援に計画を見直している。変化のない利用者においても、ADL(日常生活動作)の低下予防のため、生活をリハビリと考え、レベルにあわせた役割をとり入れている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制をとることにより訪問看護ステーションと契約し、日常的な健康管理や医療機関との連絡調整を行っている。また、重度化した場合の終末期における入院回避についても条件が許せば行っている。また、家族の状況に応じて、通院等の移送サービスも柔軟に支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医の往診が2週間に1回ある。個人でかかりつけ医に通院する方、定期的に専門医を受診する傍ら通常は往診を受けて管理している方等、個々の希望にそった受診支援となっている。歯科は衛生士が週1回の口腔ケアを、歯科医師が月2回希望者を診療している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	平成20年度に1名、看取りを行っている。あらゆる場面を想定して早い段階から家族へ情報提供を行い、医師、看護師を含め方針を共有し、ケアにあたっている。痛みや苦しみのある場合など、状況により対応が出来ないこともある。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	人としての尊厳を傷つけるような口調や内容の言葉かけをしないよう、注意、指導をしている。個人情報に関する資料は保管庫に収納されており、口外もしないよう、全職員に徹底している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、無理強いや職員の都合で動くことはせず、一人ひとりの状態を配慮しながら、本人の気持ちを察して柔軟に対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	茶碗、箸、湯呑みは一人ひとり自分のものが決まっている。利用者は個々の力に応じて、テーブル拭きや後片付け等を職員とともにっており、職員は、必ず一食は利用者と同じ食事を一緒にとるようにしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週5回、午後の時間帯に入浴することができるが、本人の希望を大切にしている。入浴剤を入れるなど変化をつけて楽しんでもらい、ADL(日常生活動作)低下により浴槽をまたげない場合などは、デイサービスにある座型の特浴を利用している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	掃除、食事の後片付け、洗濯物たたみ等、利用者一人ひとりの力量に応じた役割のほか、趣味、誕生会、外食、アニマルセラピー、四季折々の行事等、張り合いや喜びのある日々を過ごせるよう支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者一人ひとりの体調に配慮しながら、散歩や徒歩での買い物などに出かけている。時には、車で大型スーパーマーケットに衣類等を買いに行くこともある。家族との外出は自由に行ってもらっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	デイサービス施設が1階にあるため、玄関はオートロックになっている。内部での移動は、3階から1階まで自由に行き来することができるようになっており、職員は見守りの体制をとり、支援している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災自動通報装置、音声点滅式誘導装置が整備されており、備蓄や避難経路の確保もされているが、消防署指導のもとでの避難訓練はまだ実施されていない。近日に消防署に相談し、実施する意向である。		慌てずに避難誘導できるよう、訓練を重ねていく必要があるため、消防署指導のもとでの避難訓練の実施が望まれる。また、地域の協力が得られるよう、運営推進会議の議題にするなど、働きかけていくことも期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材取引業者が栄養バランスを考え、献立表を作成している。職員は、利用者一人ひとりの体調に合わせて、食事、水分の摂取量を調節しており、必要な量が確保できるように心がけている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の機能低下やプライバシーを配慮した造りになっている。リビングは広くて日当たりがよく、居心地のよい空間となるように食卓やソファの配置を工夫している。また、清潔感があり、外来者への手洗い、消毒の徹底や室内を加湿するなど、健康面での配慮もしている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が使い慣れた家具や家電製品、趣味の品が持ち込まれている。部屋からは、直接バルコニーに出られるようになっており、布団を干すこともできる。床に座るために大きな座布団を置いている利用者もみられ、各自が好みのスタイルで生活をしている。		